

(2) ツクツクハウシタケ (スティルベラ科マユダマタケ属)

場 所：西彼杵郡長与町丸田岳

期 日：平成22年8月18日

以前から、冬虫夏草を見つけないかと思っていたが、地面すれすれを注意して探さないといけないので、避けていたところがあった。しかし、今年初めて、ツクツクハウシタケを自分で見つけられ、大感激だった。

この発見も、ミミズサタケと同じように布石があった。7月27日、理科の先生方と長崎市岩屋山に、植物観察会で行ったときでした。休憩していると、下山してきた方に出会い、その方と岩屋山の植物について、しばらく話をしました。そして、手の中にあるものを見せられ、「これは何でしょうか。」と聞かれ、のぞくと、蟬の幼虫から出ている冬虫夏草としかわかりませんでした。写真を撮らせてもらい、帰宅して調べてわかりました。そして、土に埋まっているツクツクハウシタケの写真を撮りたいと思いました。



8月18日、久しぶりに丸田岳に登りました。この時の目的は、チャタマゴタケでした。1ヶ月遅かったので、無理かなと思いながら、丸田岳登り口から遊歩道脇の林内を登り、きのこを探しました。帰りは、丸太を敷いてある遊歩道をゆっくり降りました。

すると、丸太下からマッチ棒を束ねたようなものが見え、なんだろうと近づくと、岩屋山で見たツクツクハウシタケにそっくりでした。斜めに入っていたので、用心しながら掘りました。



すると、白い綿に包まれたものがついてきました。綿をそとはがし、中を見ると蟬の幼虫が現れ、ツクツクハウシタケだと確信しました。岩屋山で見てなかったら、見過ごしていたでしょう。ミミズサタケとの出会いといい、不思議ですね。林に生えているキノコのほんの一部しか見つけてないんでしょうね。蟬の幼虫に生える冬虫夏草はたくさんあるので、今後も地面に気をつけながら、キノコを探しましょう。

ツクツクハウシタケは夏から秋、林内地上に発生する。セミ(ツクツクハウシなど)の幼虫の頭部から1~数本の長い柄を出し、先にこぶ状の分生子塊をつけ、白いマッチ棒に似ている。生きた昆虫に寄生してこれを殺し、その死骸からキノコを生やす菌類(いわゆる冬虫夏草)の中では、最も普通に見られる種類のひとつです。日本特産種だそうです。



岩屋山で見せてもらったツクツクハウシタケ

昔、チベットの人が、冬は虫なのに夏になると植物になる生物と考えたそうだ。寄生される虫の身になって考えると怖ろしい気がする。

出典：<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/ignatius/pages6/tukutuku.htm>

<http://primula.velvet.jp/mushrooms/tukutuku.html>

<http://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/special/yama/news/2009/090820isaria.htm>